
ガラスのむこうがわ

まう(　・ 　・)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガラスのむこうがわ

【Zコード】

N6180A

【作者名】

まつ（・・・）

【あらすじ】

心に傷を持つミノリと全て笑って忘れるキヨ。傷を負つて苦しむのと笑つてなるべく傷付かないように逃げるのは、どちらが痛いですか？

傷の過去（前書き）

ケンちゃん、　ケンちゃん。　あなたは今、私をどんな風に見ていますか。私は、あなたに会えなくなつてもう一年も経つといつのに、好きが減るばかりか増す一方です。　ねえ、会いたいよ。　…そんなこと、思つことすら我儘になるのかな。

傷の過去

月をも隠す厚く大きな雲が、空を覆つた。

それは途切れることなく

彼女の瞳に一筋の光さえも映すのを許さないかの様だ。

彼女、フカガワ ミノリは今夜も眠れない夜を過ごす。

こんな暇な時間は誰かにメールするよりも、電話をするよりも、ボロボロになつたノートに思いつくまま言葉を並べた方が、とても良い暇つぶしになつた。

自分が眠れない理由なんか随分昔に忘れてしまつた。

それは手首に残る傷跡のみが、知つている。

それでいいのだ。

「ミノリ、またクマ出来てる」

「…いいよ、もう」

そんなんだから恋人出来ないのよ、と呆れながら力ホは言った。力ホはギャルど真ん中つて感じの女の子で、以前は似たような子が集まるグループに居たのだけれど、馬が合わなかつたのかこうしてミノリと行動するようになつた。

「あ、そういえば～さつきナカタ二君がミノリ探してたよ」

「誰？それ

「うわ、ミソシヤばこよ。ナカター君と有名じやんー。」

答えになつてないよ、ヒノコは小さく思つた。

噂では確かに何度か耳にしたことがある名かもしれないが、彼とは何の接点も無かつたので何かの間違いだらうとあまり気にしなかつた。

「どうある？」「くわいたらね」

「どうもしないよ」

「もー。ミソシヤ話が盛り上がりない

今でもあの頃みたく好きだと言えますか。

本当に、もう誰かに心奪われるような あんな気持ちにはならない
だろう。
いや、なつてはいけないんだ。

傷の過去（後書き）

駄文なのですが、読んでいただきありがとうございました！感想などありましたら気軽にどうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6180a/>

ガラスのむこうがわ

2010年12月10日22時47分発行